うことを聞きなさい、違う！！パパは俺じゃない！というか、家族じゃないし！転生だし！まぁ

美羽派の男Ａ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
パパのいうことを聞きなさい、違う！！パパは俺じゃない！というか、家族じゃないし！転生だし！まぁ、いいや

【Ｎコード】
Ｎ６７３６Ｙ

【作者名】
美羽派の男Ａ

【あらすじ】
空を見ていたら豆腐が落ちてきて、顔面に当たりショック死
そして、神様が可哀想だから、転生さしてあげるといい、お言葉に甘えて転生、そして、転生先は「パパのいうことを聞きなさい」の世界だった。
これから始まる、どたばたネタ有り、恋有りの物語

※作者は初心者です、コメントをくれれば嬉しいです

説明

えっと、こんにちは、もしくは、こんばんは。

この作品は僕の大好きな作品「パパのいうことを聞きなさい」の二次創作です。

この作品は転生物です。バトルは有りません。

まぁ、当たり前ですけど。駄文です・・・・まぁ、書いている内に治して生きたいです。

そして、独自解釈などいろいろありますが、気にせずに読んでくれると嬉しいです。

そして、作者は受験生です。あんまりかけません、ですけど、受験が終われば、たくさん書きたいです。

そして、自分は空派ではなく美羽派です。

無印～転生編～（前書き）

どうぞ、駄文ですけど

無印～転生編～

主「あれ？ここてどこだろう？」

神「ここは、あの世じゃ」

なにを言っているんだ？このはげて白い羽を生やした痛い爺さんは

神「お主は死んだんじゃよ・・・」

主「は・・・死んだ？それは、嘘でしょ、僕はただ新刊を買いに本屋に入って帰ってる途中で上を向いたら豆腐が降ってきて、それを顔面に喰らっただけどよ・・・死ぬ要素なんて、どこにもないじゃないですか」

神「ふむ、では、これを見てみるのじゃ」

といい神様（痛いじじい）はＰＳ○を僕に渡してきた

主「え・・・これは？ＰＳ○？」

神「そうじゃ、Ｐ○Ｐじゃ」

なんで、ＰＳ○渡されたんだ？あれ、勝手に電源が付いた・・・・

そして、画面内から動画が移りだした

～画面内～

一般人Ａ「おい！なんか、豆腐が顔面に当たって倒れたぞ！」

一般人B「なんで、上から豆腐降って来たの？」

一般人C「それより・・・・この本・・・・」

一般人E「それを言うな・・・・・」

医師　「死んでます・・・・・」

一般人達『マジで？』

医師　「マジです」

～終了～

はは・・・・なにこれ・・・・よく出来てるな～最近のドッキリは・・・・

神「これは、ドッキリじゃないぞ・・・・」

主「嘘だ～、そんな、豆腐が空から降って来て死ぬ人なんて、居るわけ無いじゃん」

神「現にわしの目の前に居るんじゃが」

そう言いながら、僕に指を差してきた

学校で人に指差すなて習わなかったの？

主「神様・・・・指差さないでください」

神「おう・・・すまんすまん」

～１０分後～

神「という訳でお主を転生させてやる」

主「まじすか？」

神「まじじゃ」

よっしゃー、第二の人生来た！！

しかも、なんか、スキル付けてくれるらしいから、ラッキーだぜ

神「決まったかの～～？」

主「神様その前にさどこの世界に行くの？」

神「別にどこでもいいぞ・・例えば、Ｆａｔｅの世界とか」

主「あれ？神様Ｆａｔｅ知ってるの？」

神「当たり前じゃ、天界では有名な作品じゃぞ」

へぇー、有名なんだ、と、その前にどこの世界に行くか決めないと・・・

主「学園黙示録・・・・死ぬな・・・　Ｆａｔｅ・・・・巻き込まれて死ぬな　北斗の拳・・・・チンピラに殺されるな・・」

そう考えてるとき、僕のポケットに携帯電話があることに気づいた

主（まぁ、携帯で探すのもいいか・・・）

といい、僕は携帯を開いた

主（あ・・・この世界いいなー）

主「神様決まりやしたぜ」

神「どこじゃ？」

主「パパのいうことを聞きなさいと言う小説の世界にいきたい」

神「本当にそこでいいのか？」

主「あぁ、大丈夫だ」

神「では、世界は決まった、次はスキルじゃな」

もうスキルも決まってるぜ

主「無窮の武練と黄金律と怪力のスキルを頂戴な」

神「ふむ・・・・いいじゃろう」

主「ちなみに、全てＥＸでよろしく」

神「欲が強いの～まぁ、いい姿はわしが勝手に決めとくからの～」

そういうと、神様はＰＳ〇を持ち、作業をし始めた

そして、僕の目の前になにかのデータが出てきた

筋力：Ｄ－　耐久：Ｃ　敏速：Ｄ－　魔力：Ｅ　幸運：ＥＸ

スキル：無窮の武練：ＥＸ　黄金律：ＥＸ　怪力：ＥＸ

神「これでいいかの～？」

主「十分だよてか、なんで、Ｆａｔｅ風？」

神「気分じゃ」

～１０分後～

神「では、楽しんでくるんじゃぞ」

主「言われなくても、じゃあな」

そういい僕は落ちていった

無印～転生編～（後書き）

筋力とかいろいろありましたけど、スキルと幸運以外あんま意味ありません

そして、最後まで読んでくれてありがとうございます。

駄文ですが感謝です

無印～過去編1～（前書き）

駄文をどうぞ

無印～過去編1～

さて、僕が転生して5年目の夏が来ました・・・・

この5年間原作キャラに会っていません、というか、僕はなんで毎年、東京ビッグサイトに来てるんだろう

始めは、一回も行っていないから「やったぜーーーーーー！！！！」と一歳の時はそう思ったよ、けどさ、子供の僕が毎年ここに、連れてこられて子供の体力舐めるなよ！！

ま・・・今年は仮面ライダー龍騎の同人誌でも探すか・・・・

母「どうしたの？奏」

あ・・・今喋ったの母さん、ちなみに、奏は僕の名前だ苗字は橘合わせて読むと　橘（たちばなかなで）　奏

父「大丈夫か？まさか、日射病か？」

奏「いや、父さん、母さん、なにもないよ・・・」

母「それにしても、やっぱり、奏は女の子ポイわね」

父「そうだな」

そう、俺の容姿は女の子ぽかった・・・たぶん、神様のせいだ　ま・・・ちゃんとスキルが発動してるから許すけど

母「それより、開いたはよ」

父「では、諸君等の無事を祈る」（敬礼

母（敬礼

奏（敬礼

そうして、僕らはそれぞれ自分の趣味の所に歩き始めた

父：アイドルマスターなど　母：デュララなど　奏：仮面ライダー系

さぁ、始めるか・・・・戦争を　持ち金（３００００円）なんでこんなにあるかって？黄金律のおかげだよ

～～５０分後～～

かなり買えたよ・・・・ホッパー兄弟、王蛇などちなみに、僕は悪役が好きだ

？「お母さん？どこ？」

目の前にうろうろしている、女の子がいる・・・・・・え・・・まさか、コミケで原作キャラに会うなんて

まぁ、まずは、話し掛けよう

奏「どうしたの？」

？「お母さんとはぐれちゃったの」

よく思えば、僕と同じくらいの年齢じゃん

奏「一緒に探してあげるよ」

？「いいの？」

奏「いいよ、今暇だったから君の名前は？」

？「私の名前は小鳥遊（たかなし）　美羽（みう）5歳よろしくね」（笑顔

わぉ、笑顔可愛い

美「お兄ちゃんは？」

奏「僕の名前は橘　奏、美羽ちゃんと同じ5歳、お兄ちゃんじゃないよ」

それから、僕達は探した

～～10分後～～

美「もう、疲れたよー」

奏「大丈夫？もう少しで見つかると思うから、もうちょっと探してみない？」

美「わかったよ・・・お兄ちゃん」

奏「お兄ちゃんじゃないよ」

ー美羽ＳＩＤＥー

もう、足がくたくただよ、お兄ちゃんがもう少しで見つかるてさっきから、いってるけど全然会えないよ・・・

それに、お兄ちゃんもキツそうだし・・・あれ？本当にお兄ちゃんて男の人？

見た目適に女の人に見えるけど？

美「ねぇ、お兄ちゃんて男の子だよね？」

奏「うん、そうだけど・・・どうしたの？」

美「なにもないよ」

うーん、やっぱり、女の子ポイんだよな～

まぁ、いいや

あ・・・お母さんたちだ！！

ー奏ＳＩＤＥー

ぜんぜん、見つからないなーというかどんな人か覚えてない・・・・

美「お兄ちゃん、お母さんたち居たよ！！」

お・・・見つかったんだ、よかったじゃん

？「美羽！！大丈夫だったか！」

たぶん、お父さんだな

？「心配したんだからね！美羽！」

お母さん、だな

？「大丈夫だった？美羽？」

お姉ちゃんだな

美「お兄ちゃんが一緒に探してくれたの」

といい、僕に向かって指を指してきた

おいおい、美羽ちゃん人に指を指しちゃいけないてお母さんに習わなかったのかい？

？「美羽！人に指指しちゃ駄目！！」

美「ごめんなさい」

とそんな、やりとりを見ているとお父さんポイ人が僕に近づいてきた

？「ありがとうな、君・・・だが、もし手を出したらコロス！！」

と小声で僕の耳元で言ってきた・・・・やばいよこの人！！娘好きだよ！！

それから、何故か写真を撮り別れた

～家～

父「ふー、明日から仕事か・・・がんばるか・・」

母「そうね、がんばりましょ」

僕の親はとある会社で働いている、まぁ、そんな事はどうでもいいや、さて、今日買ったもの見てこよ

～自分の部屋～

いやー、なんて、いい部屋なんだろうこの部屋

僕はベッドにダイブしそのまま眠りについてしまった。

無印～過去編1～（後書き）

どうも、最後まで読んでくれてありがとうございます。
どうしようもない駄文です

無印～過去編2～（前書き）

無印が続きます。
駄文ですがどうぞ

無印～過去編2～

僕が学校に入って二年が立った

そして、今は昼休み中

1「パス、パス」

そう・・今僕がやってるスポーツは「ドッチボール」

そして、僕は今コート内で、最後の一人

4「橘さん!!橘さん!!橘さんナズェミデルンディス!」

橘（ボールを避けながら外野の4を見ている

あれ?あいつ、あんなに発音悪かったけ?

5「ダディャーナザァーン!!（橘さぁーん!）ヘェヘェ!!ナズェミデルンディス!!（何故見てるんですか!!）」

奏「お前等!発音が可笑しいよ!!」

突っ込んでいる間に、ボールに当たってしまった・・・・クソ!!

あいつら許さない!!

とまぁ、いろいろ合った・・・・

～一ヵ月後～

先「あー、橘が引越しすることになった」

クラスメイト『まじかよーーー！！』

先「マジだ、ちなみに、先生　彼女募集中だ」

クラスメイト『まじか！！！』

先「今度、合コンやるから　来れたら、この店こいよ」

普通・・・・こんな話、転校する日に言うか？

もう、みんな合コンの話で夢中だぞ　俺可哀想・・・マジで可哀想・・・

～一週間後～

先　「はい、では、今日は転校生を紹介します」

男1「女の子ですか？」

女1「男の子ですか？」

先　「う～ん、謎です」

男2「謎てなんですか！！」

先　「その言葉の通りです」

女2「見ての楽しみて事ね」

？　「美羽どんな子だと？」

美羽「うーん、わかんない」

先　「橘君！！入ってもいいわよ」

橘　「こんにちは、今日転校してきた　橘　奏です。これから、よろしくお願いします」（ぺこり

男1「本当だ・・・男か女かわからない・・・」

橘　「男です」

女3「男なんだ・・・」

なに、あの3番目の子・・・・百合心があるの？まぁ、まだ2年生だから・・・・

美羽「あ！！お兄ちゃん！」

？　「美羽なに言ってるの？」

橘　「えっと、誰でしたっけ？」

美羽「忘れちゃったの？」

～次回に続く～

無印～過去編2～（後書き）

駄文ですどうぞ

設定（前書き）

今回は設定です

設定

名前：橘（たちばな）　奏（かなで）

性別：男の娘

好きな物：ヒーロー物、漫画、小説

嫌いな物：野菜、ゲテモノ、虫、静かなところ、豆腐

好きな人：自分をわかってくれる人、優しい人、気前が良い人

嫌いな人：暴力を振るってくる人、虐めてくる人

スキル：無窮の武練　黄金律　怪力　前世の記憶

無窮の武練：いついかなる状況においても体得した武の技術は劣化しない。

黄金律：人生においてどれほどお金が付いて回るかという宿命を指す

怪力：一定時間筋力のランクが一つ上がる。持続時間は「怪力のランク」による。

前世の記憶：前世で学んだ事、記憶など全てが引き継がれる「運のランク」によって、よりよくわかる

設定（後書き）

これで終わりです

無印～過去編3～（前書き）

駄文ですけど
どうぞ

無印～過去編３～

美羽「お兄ちゃん覚えてないの？」

奏　「ちょっと、待って今思い出す・・・」

えっと、親戚の井本さんの子供？いや確かあの人今、ブラジルに移住してたし・・・・佐久屋さん？いやあの人大阪だ

美羽「お兄ちゃん、美羽だよ」

美羽・・・・あ・・あーーコミケの時に一緒に親探して、父親に手出したら殺すて言われて速く忘れよて思って忘れたんだ

それにしても久しぶりに原作キャラにあったなー

奏　「久しぶり、それと、お兄ちゃんじゃないよ」

クラスの男子（美羽様にお兄ちゃんて呼ばれて・・・・羨ましいぞ・・・・）

先　「感動の再開はもういいかしら？」

奏　「ありがとうございました」

女５「先生席てどこにするんですか？」

男２「先生の隣ｗｗｗ」

先　「君は後で職員室ね」

男2「はーーー！！！！」

先　「ちょうど良い所に美羽さんの隣の席が空いてから、そこで」

男5「先生そこは、小林の席です～～」

先　「いいのよ、平日に旅行行くやつが悪いんだから・・・・じゃあ、そこね」

奏　「はい、わかりました」

はぁ～転校て疲れるな・・・

～席に着き～

美羽「これから、一年よろしくねお兄ちゃん」

奏　「お兄ちゃんは止めてくれ・・・・うん？」

なんか、前世でこんなことあったな・・・・・・

美羽「どうしたのお兄ちゃん」

奏　「なんでもないよ」

えっと・・・・・思い出した

～思い出し～

『おはようございます■■様』

『おはようございます■■様』

「虐めか！！それいい初めてから、周りの目線が痛くなってきたんだよ！！！！！」

『それは、悲しいです■■様』

「まじで、やめてくれよ！！」

～終了～

確か中三の時だったな・・・・・

？　「美羽・・・あの子、なんか、苦しそうな顔してるよ」

美羽「そんなに私の隣が嫌だったのかな・・」（涙目

クラスの男子（泣かせたら・・・・殺す！！

この時、クラスの男子が一致した奇跡の瞬間だった

奏　「先生・・・保健室にいってもいいですか？」

先　「いいけど、場所わかる？」

奏　「大丈夫です、運がいいほうですから」

EXだからだね

～廊下～

あれ？本当に保健室どこ？

マジで、わからない・・・・・・・

そうだ、よし、OKこれは、罠だ・・・・この学校に保健室が無いと思わせる・・・・罠だ！！！！

ま・・・・冗談はこれまでにして・・・・確か母さんが道わからなくなったら聞きなさいて言ってたから

あの人に聞いてみよ

奏　「すいません、保健室てどこですか？」

？　「え・・・・・」（後ろに引く

見られた瞬間にこれて酷い・・・・

～次回に続く～

無印～過去編3～（後書き）

すいません学校に行かないといけないので

これで

無印～過去編４～（前書き）

駄文ですけど、どうぞ

無印～過去編４～

ここは、謝るべきだな

奏　「あの・・・なんかすいません」

しかたない、自分で探すか・・・・はぁー、初対面の人に引かれるなんて悲しいな・・・・

？　「ま・・・前！！」

うん？なにか言ってる・・・・・・て、ぎゃーーーー！！！！！

そして、僕は会談から落ちた・・・そこから病院に運ばれ一時間くらい気を失ってたらしい

～病院～

医　「いや～、それにしてもすごいねー、まさか、頭から落ちて死なないなんて、君はなんだい？化物かい？」

奏　「化物ではないです」

医　「まぁ、いいや、頭の包帯は外さないでね」

奏　「はぁ・・・・わかりました・・」

～家～

父　「大丈夫か？痛くないか？」

奏　「痛くないよ・・」

母　「思えばそろそろ行く時間ね」

奏　「いくてどこに？」

父　「あぁ、父さん達会社転勤になっただろ、それでな、優しい夫婦がな、家に招いてくれるから、お言葉に甘えて行こうて話なんだ」

奏　「僕も行っていい？」

母　「大丈夫よ、奏と同じ歳の子供が要るらしいか、遊んでもらいなさいよ」

奏　「ありがとうね」

～優しい同僚の家の前～

父　「こんばんはー」

？　「よく、来たな中に入りなよ」

母　「ありがとうございます」

奏　「ありがとうございます」

？　「君頭大丈夫？」

奏　「大丈夫です」

～親切な人の家の中～

うはー、でかい、広い・・・・すごいなー、この広さ異常だよ

最近ぜんぜん、原作を思い出せなくなってきたけど・・・・まぁ、いいや

母　「あ・・・祐理さん、お邪魔してます」（ペコリ

祐理「よく、来たわね」

笑顔で迎えてくれた

母　「息子の奏です。」

祐理「本当に女の子にそっくりね、よろしくね奏ちゃん」

奏　「僕は男なので君だと思います、こちらこそよろしくお願いします」

祐理「信吾さんも挨拶してください」

信吾「わかった、僕の名前は信吾よろしくね、奏君」

奏　「こちらこそ、よろしくお願いします」

～5分後～

？　「パパお風呂でたよ」

僕がちょうど、「戦争論」を呼んでいると、信吾さん達の子供が来

たらしいです

？　「パパ、この人たち誰？」

父　「こんばんは、お譲ちゃん達、僕と妻は君のパパが働いてる会社の同僚だよ、こら奏！挨拶しなさい」

奏　「わかったよ・・・僕は橘　奏よろしくね」

？　「え・・・あなた？まさか、今日階段から落ちた子？」

奏　「え・・・僕の事知ってるの？」

？　「うん、今日私の目の前で階段から落ちた子でしょ・・・」

えーと・・・話しかけて引いた子だ・・・・

奏　（悲しい顔まさに、これ→（｜｀｜｜｜）

？　「・・・なんかごめんね」（謝罪

奏　「いえ・・・きにせずにどうぞ」

こうして、僕はマイナスのオーラを５０分間放ってた（大人達は酒を飲んでテンションがハイになっていた

祐理「今日はもう、泊まっていきなよ」

母　「そうさせてもらうは！！」

信吾「君も酒もうちょっと飲みなよ！」

父　「ええ・・・では・・・」（飲む

奏　「すいません、眠くなってきたので寝たいのですが、どこで寝たらいいですか？」

祐理「別にどこでもいいわよ、奏ちゃん」

奏　「わかりました、それと、君だと思います」

さて・・・・どこで寝ようかね～～

この時僕はもうマイナスオーラを放っていなかった

？　「さっき、言い忘れたけど、私の名前は空よろしくね」

奏　「ええ・・・よろしくお願いします」（ふらふら

空　「ふらついてるけど大丈夫？」

奏　「眠いです・・」

空　「どこで寝る？」

奏　「どこでもいいです・・・・・Ｚｚｚ」（あまりの眠さに倒れる

空　「倒れちゃった・・・ねぇ、美羽どうすればいいと思う？」

美羽「Ｚｚｚｚ」（寝てる

空　「どうすればいいのよ！！」

大人達（宴会中

～翌朝～

どうやら、僕はいつの間にか寝てしまったようだ・・・さて、おきて毎朝のジョギングをしなければ・・・

あれ？動けない・・・・なんでだ？まさか、金縛り？

あれ？暖かい・・・・なんだろう、呼吸音が聞こえる・・・・

そう思い、僕は横を向いた・・・そうすると、空さんが居た・・・・

奏　「！！！！！」

あ・・・なんか、今更だけど、思い出した・・・空さん・・・低血圧で人に知らない間に抱きついて暖を取るんだ・・

みんな、羨ましいかい？なら、変わってくれよ・・・僕今、空さんに腕挫十字固されて、間接決まってるんだよ

美羽「はーー（アクビ）あ・・・お姉ちゃんずるい！！」

だからって、その上に乗らないでくれ！！！！

と、まぁ、いろいろあった・・・・

〜次回原作入り〜

無印～過去編４～（後書き）

駄文ですがすいません

夏休み（前書き）

駄文です

夏休み

僕が五年になって夏休みが来た。

いつもなら、毎年どおりコミケに行くはずだったが、父さんと母さんが小鳥遊（美羽の母さんと父さん）さんと一緒に海外出張に行った。

ちなみに、僕は家で一人・・・・暇だ・・・美羽さんの家にでも行こ・・・・思えば、空さんにやられてからトラウマになっていこうとしなかったんだよなー。

そう思い僕は小鳥遊さんの家に行くことにした。

だが、この時僕は知らなかった・・・・

～小鳥遊～

奏　「こんにちは」（ドアを開ける

あれ？鍵が開くのになんで、誰もいないんだろう？けど、靴はある・・・・

そう思い、僕は自分の記憶を思い出し広間に移動した・・・

～広間～

あれ、泣いてる？なんでだろう

空さんは泣いてて、美羽さんも泣いてて、ひなちゃんが寝てる・・・・ちなみに、ひなちゃんは美羽さんの妹らしい。

奏　「あの・・・どうしたんですか？」

空　「グス・・・パパ達が・・・死んじゃった・・・」

奏　「え・・・どうして死んでしまったんですか？」

～説明中～

そんあ・・・飛行機が・・落ちたなんて・・・信じられない。

そんなこと、ドリフの劇でもないんだから。

そうだよ、これは嘘だよ

奏　「嘘・・・ですよね？」

美羽「嘘じゃないわよ！！」

はうあ！！怒られた・・・という事は・・・これは、真実なのか・・・

奏　「まさか・・・本当ですか？」

美羽「だから。そうって言ってるじゃないない！！」

奏　「すいません・・・」

美羽「こっちこそ・・・ごめん・・・・」

まさか・・・本当だったとは・・・

だって、飛行機が落ちるなんて約三百分の一の確立なんだろ・・・

あれ？今思った・・・・僕の家に親戚いなかったんだ・・・・

どうしよう・・・・

まぁ、まずは自分の家に戻って・・・・

奏　「ごめんね・・・・帰るよ・・・・」

～家～

まずは・・・・母さんの部屋だ・・・

～母さんの部屋～

えっと、まぁ適当に探すか・・・

～３０分後～

同人誌とかいろいろ出てきた・・・後、アルバムがでてきた　それと、通帳と判子・・・

通帳の中の予算額は・・・・ハ！！　１，２，３，４，５，６，７，８，９，１０，１１，１２桁・・・まさか、これ黄金律のおかげが？そうだよな・・・・すげーよ

次は父さんの所だ

～父さんの部屋～

さて、どこから探すか

～３０分後～

なんか・・・・あれがでてきた・・・・（作者の自主規制

それと・・・こっちも通帳と手紙（？）と写真となんだ？これ暗号？

写真には・・・・大学のときの友達・・・すごいな・・・太い人がいる・・・えっと・・佐古俊太郎？誰だこの人？

それから、通帳を見てみた、こっちも同じ、桁だった・・・・金ありすぎ・・・流石黄金律：ＥＸ

手紙は、え・・・「困ったら佐古君を頼ってくれ・・後、もし死んだら葬式開かないでねよろしく、じゃ、ノシ」

佐古さんはわかったよ、葬式も開かなくていいんだね、ノシてチャットかよ！！て突っ込んだら涙が出てきた・・・

そうして、僕はその日寝てしまった

～終わり～

夏休み（後書き）

駄文でした

俺を見捨てないでくれ！！（前書き）

駄文です。
それと、コメントありがとうございます。

俺を見捨てないでくれ！！

～瀬川　祐太ＳＩＤＥ～
こんにちはもしくは、こんばんは瀬川祐太です。

「こいつ誰？」て思った人は・・・いますね・・・

作者「瀬川さんは、祐理さんの弟だよ・・・・はい、解説終了！！」

解説すくない！！俺て一応主人公だよね！！と、心中の叫びはやめて・・・と・・・・

瀬川「タイミングなくしちゃったな・・・」

そんな言葉が思わず口をついて出た

ショックが大きすぎたってのもあるし、現地調査だの事故調査がどうだのって起こったことが大きすぎてまるで、現実感がわかなかった。

今頃になってやっと実感がわいてきたっていうのに、周りはすっかり涙も枯れ果てている。これじゃ、泣きたくても泣けないや。

伯母「祐太さん」

瀬川「あ・・・伯母（おば）さん・・」

伯母「私はそろそろ帰りますけど、祐太さんはどうするの？」

瀬川「俺ももうちょっとしたら、帰ります」

そう言って立ち上がった時だった俺の耳に、ひとつの言葉が飛び込んできた。

A　「空ちゃんは誰と暮らすのがいいかな」

B　「うちは年頃の男の子がいるから・・・ちょっと難しいわ。ひなちゃん一人なら、考えなくも無いけど」

作者「話長くなるから、飛ばすぜ・・・答えは聞いてない」

瀬川「ちょ！待て」

伯母「祐太さんなに言ってる？」

瀬川「いや・・・なにも・・・」

～１０分後～

まぁ、いろいろあって、三人は俺が引き取ることになった

作者め飛ばしやがって

～奏ＳＩＤＥ～

まぁ、一応僕は、美羽さんのお母さんとお父さんのお葬式行ったよ・・・・

けど、あんまり覚えてないんだ・・・・気晴らしに本屋にでもよろ

～本屋～

・・・・・・はぁ～

最悪だ・・・・なにも、やる気が起きない・・・・

なんで、僕は転生したんだろう・・・・ふと、そんな事を考えてしまった

そして、僕は思いついてしまった・・・・死んでしまえ・・・どんだけ楽になれるだろうか・・・

そうだ・・・死んでしまおう・・・どうせ、僕はこの世界にいても意味が無いんだ、なら、死んでしまえばどれだけ楽か・・・

そう思い、僕は自殺辞典という本を１２００円（税込み有）で買った。

～それから、一週間後～

僕はまだ死んでなかった・・・・死のうと頭をタンスの角にぶつけるが生きてた・・・・

首を吊ろうとしたら、そのヒモが切れて顔面から床にダイブ・・・・

そして、あれこれやり一週間がたった日だった

ピンポ～ン

なんか、久しぶりに聞いた音がした

～次回に続く～

俺を見捨てないでくれ！！（後書き）

駄文ですがすいません、

ちなみに、奏君は今死にたがり状態です

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6736y/

パパのいうことを聞きなさい、違う！！パパは俺じゃない！というか、家族じ

2011年11月22日23時54分発行